

『研究年報』編集委員

- 委員長 須川 公 央 (教育学)
委員 井原 哲 人 (社会福祉学)
委員 佐久間 路 子 (発達心理学)
委員 廣 澤 満 之 (発達心理学)
委員 中 島 好 伸 (アメリカ文学)

編集後記

教育・福祉研究センター『研究年報』第22号をお届けします。本号を刊行するにあたり、論稿および研究・活動成果報告をご寄稿くださった先生方、また査読の労を執ってくださった編集委員、そして事務局および研究員の皆さまには心より御礼申し上げます。

本号では厳正なる査読審査のもと、論文3本、研究ノート1本の計4本を掲載させていただくことになりました。いずれの論稿も研究領域・方法の双方においてバラエティに富んでおり、内容面においても充分ご満足いただけるものであると自負しております。皆様からの忌憚ないご意見を頂戴できれば幸いです。

さて、近年の大学における学術研究活動をめぐる環境は、日に日に厳しさを増しているように思われます。教育活動のさらなる充実や地域に開かれた大学としての社会貢献活動など、研究以外での大学教員に対する期待が高まっているなか、本来の業務の一つである研究活動を如何にして充実させていくのか。紀要や年報を始めとする学術刊行物は、その大学の研究水準を表わす重要な指標の一つであることを考えると、量・質ともに充実した研究成果を継続的に公表し続けていくことは、学問の府としての重要な責務であると考えます。

センターでは、そうした社会的責務を全うするべく、引き続き皆様の研究活動をバックアップさせていただき所存です。今後ともご協力・ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

(須川公央)